

## 更なる飛躍に期待



一般財団法人 日本環境衛生センター  
理事長 南川 秀樹

東京都ペストコントロール協会の創立50周年おめでとうございます。半世紀と一言に言いますが、社会の期待に応える公的な活動を実施しつつ、必要な収益を上げて、組織を維持していくことは容易なことではありません。関係者の皆様の地道で真面目な日々の活動の積み重ねの結果であり、心から敬意を表するものです。

協会の設立された昭和43年は、日本が高度経済成長の中にあって国民総生産が西ドイツを抜いて世界第二位になり、多くの国民が豊かな生活を享受する一方で、大学紛争により東大の入試が中止になるなど、不安定な要素も見られ始めました。環境や衛生の世界でも様々な出来事があり、問題にも直面しました。四日市市、川崎市、大阪市はじめとした工業都市を中心に深刻な公害が多く被害者を発生させ、国中の関心を集めました。大気汚染防止法が制定されたのもこの年です。都23区の廃棄物処理も曲がり角に来ていました。埋立地の江東区夢の島地区では埋め立て地にハエや蚊が大発生し、悪臭とあいまって、住民や子供たちを苦しめていました。こうした出来事は、豊かな社会のもう一つの面を私たちに見せてきました。そうした社会の変化に対応し、有害な生物が身の回りに溢れ生活環境を悪化させることの無いような取り組みを進めるべく、貴協会が設立されたのではないのでしょうか。

それから50年、貴協会は、極めて真面目にこの課題に取り組まれてきました。特に、有害生物全体を悪と決め付けることなく、あくまで人に害の無いレベルまで制御するという思想の基で、コツコツと活動を続け、成果を挙げてきました。今、私たちの社会は、地球は、温暖化をはじめ多くの環境問題や衛生問題に直面しています。この一年を見ても、温暖化に関連し、極めて不順な天候が相次ぎ、全国各地で洪水が発生、それに伴う避難施設での害虫の発生などの衛生上のトラブルが頻発しています。また、おびただしい量の廃棄物が発生し、これも衛生害虫の発生が懸念されます。

貴協会は、慌しい事件や苦情への取り組みに加え、日常的な啓発活動に努められています。これからも幅広い視点を持って、東京都の環境衛生の向上のために活躍されることを期待します。